

「地域学校協働活動」、新たにスタート！

八代市内の各小・中・特別支援学校は、6月に学校を再開して2ヵ月を迎えようとしています。その間、学校では換気や消毒の徹底、授業内容や形態での配慮など、新型コロナウイルス感染防止のために必要な取組みを徹底した上で、児童生徒の健やかな学びを保障する教育活動が行われてきました。地域の皆様にも、マスクの作成や児童生徒が手に触れる箇所の消毒など学校支援等で子どもたちの活動をご支援くださいました。本当にありがとうございました。



さて、本事業は、これまで「地域学校協働活動」「放課後子ども教室」「地域未来塾」それぞれ個別の事業として実施されてきた既存の3事業を統合、コーディネート機能と多様な学校支援活動を充実させた「地域学校協働活動」として新たに本年度スタートしました。地域学校協働活動とは、これまでの学校支援の取り組みとどこが違うのでしょうか。その違いは、端的に表すと、「支援」から「連携・協働」へ。すなわち、地域が学校や子どもたちを応援・支援するという一方向の関係から、地域と学校がパートナーシップに基づき双方向の関係になるということです。これまでの活動をベースに、子どもの成長を軸にして自立した地域社会の基盤の構築・活性化を図る「地域とともにある学校づくり」「学校を核とした地域づくり」を目指していくこととなります。

ところで、国語辞典では、「協働とは、同じ目的のために、対等の立場で協力して共に働くこと」と記されています。学校の先生方とボランティアさんは、共に「子どもたちの健やかな成長」を願って仕事・活動をしており、これは「同じ目的」と言えます。

しかし、これまでボランティア活動の多くは、学校のお手伝いという意識で行われ、先生方も「ボランティアさんに支援してもらおう」と考えてきました。これは本来の意味での「対等な立場」とは言えません。

では、地域と学校の「協働」は、どうすればさらに進むのでしょうか。「協働」の基盤は信頼関係であり、信頼関係を築くには意思の疎通が重要と考えます。「子どもたちのために」と日々頑張っている熱意ある八代市の先生方と地域の方々をうまく繋ぎ（気軽に話ができる場を少しずつ増やししたりしながら）、地域の宝である子どもたちの健やかな成長のために、努力していきたいと思えます。

今後ともご理解とご協力のほど、よろしくお願いいたします。

学校協力活動



《代陽小学校 町探検見守り活動 6 / 25》

放課後子ども教室



《昭和小学校 放課後子ども教室開級式 6 / 8》

第2回八代市地域学校協働本部会議 兼 第2回八代市地域学校協働活動地域コーディネーター連絡調整会議が開催されました。

6月29日（月）午後2時から、八代市公民館において第2回八代市地域学校協働本部会議兼第2回八代市地域学校協働活動地域コーディネーター連絡調整会議が開催されました。会議には本部長（教育部長）をはじめとする本部員（八代市教育委員会関係者及び統括コーディネーター、地域コーディネーター）30名が参加し、本部会議では八代市地域学校協働の進捗状況の確認やボランティア人材バンクの整備についての説明、連絡調整会議では事例紹介（三中・麦島校区）や令和2年度強化事業（不登校問題への対応）の説明、事業に関する質疑が行われました。以下は、事例紹介（発表者：坂田智子地域コーディネーター）の概要です。

◎地域学校協働活動におけるコーディネーターとしての活動 ～三中学校区編～

○地域コーディネーターの存在を知ってもらう

- ・学校職員 職員朝会や研修等一堂に会する場を利用
- ・児童/生徒 全校集会・児童集会
- ・保護者 PTA 総会・保護者会・PTA 広報紙等
- ・地域の方々 コミュニティセンター便りに掲載住民自治協議会/まちづくり協議会の会議等の場を利用



○学校と協働活動内容の検討・確認

- * 年間を通じての継続的活動 (例) 定期的な学習支援 (○付け) クラブ活動支援 (月1回)
- * その時間に限る活動 (例) 芋ほり・餅つき・昔あそび 町探検引率

○ボランティアの募集

1. 年度当初に一括して募集
活動自体の広報の意味も含め、A3用紙で募集文書を作成し全世帯へ配布（小学校区）
 2. 活動ごとに募集
 - ・まずは、保護者に呼びかけ！
学級・学年単位の活動 → 学級通信（学年通信）で呼びかけてもらう
全児童・生徒 / 学校全体 → 学校長・PTA 会長連名で募集、文書発行
 - ・活動内容に応じ地域の方々へ支援呼びかけ
- ※随時、「学校応援団」（人材リスト）に追加

○担当の先生と打ち合わせ

これを元に、支援者をコーディネート。活動内容に照らし併せて、特定の団体に依頼するのか、個人に依頼するのか、幅広くまち全体へ依頼するのかを検討する。

※人材の確保・発掘/情報の収集・共有

- ◆地域の方々へ（まず知っている人から）自ら積極的に声掛け。
- ◆支援頂いた方から、知人に声掛けして頂き広げていく。
- ◆団体の長さんに依頼し、その会員さんに話を下ろしてもらう。
- ◆町内会長さんから、町内の人材情報をゲット
- ◆地域協議会役員会で情報の発信・地域課題の吸い上げ
- ◆地域の退職校長会の先生に相談
- ◆コミセン便りでボランティアの募集



○活動を繋げる・続ける・広げる

支援者には「楽しかった!」「子供たちに元気をもたらした!」とプラスの気持ちで帰ってもらいたい。そうすれば、再度支援頂けるし、別の人達の参加にも繋がる。

そのためには？



「楽しかった・また子供たちと活動したい」と思える活動

- * 活動の目的や支援内容がはっきりわかっている
- * 自分の得意分野が生かせる（知識が技術が生かせる）
- * 子供達や先生が喜んでくれる（お礼を言ってくれる）

